

### 令和2年度水循環施策(令和3年版水循環白書)

内閣官房水循環政策本部事務局



水の仕事に興味を持った時、そして水の仕事に就き、新たな知識を得たいと思った時にまず触れてほしいのが公表される「水循環白書」である。

日本では、2011年に水循環基本法という法律ができ、政府内に水循環政策本部が立ち上がった。この本部を率えるのは内閣府副大臣であり、すべての閣僚大臣が本部員となっている。水循環白書は同法に基づき策定される。正式なタイトルは「〇年度水循環施策」で、前年度の国の水に関するあらゆる政策動向と今後の展望を総合的に取りまとめた内容となる。「白書」として閣議を経て、毎年6月17日(国土の日)に広く公表される。政府刊行物として販売もされているが、ウェブ上で閲覧できる。

降水量、水インフラの普及率、施設の老朽化度合いを示すマクロ的な数値など日本の水基礎データが豊富に盛り込まれ、水災害や脱炭素などの最新課題の動向との関連性も知ることが出来る。

専門知識を持たない水ビジネスパーソンにとっては「水とは?」という疑問に科学、社会の面から答えてくれ、水道・下水道の専門知識に触れたことのある方にも、水の新たな側面に触れる機会を作ったり、課題認識をアップデートして水に関わる人から立ち返る情報がこれほどある。

### 水の今を知る総合情報

### 水の就活生にオススメする読み物

# 水書評

～就職活動応援特集編～

インターネット上では「水」についての情報が溢れ、正確な知識を得ることが難しい。本特集では水の仕事に関心を持った水道・下水道の専門知識に馴染みのないビギナーから、大学で専門的に学ぶ方、そして水の仕事に就きつつも学びをさらに深めたい社会人まで、正しく、広く学べる読み物、書籍を紹介する。



### 下水道はじめての一步

岡久 宏史 著

日本水道新聞社 1,980円

水道も下水道も、各々の生まれ育った環境で理解の仕方が異なる。生まれ育った環境と違って、インフラへの捉え方は多様だ。下水道はその多様性がより顕著なインフラかもしれない。

本書では、下水道整備の目的について下水道法の記載をなぞらえ、住まいの環境を快適にする「一街を清潔にする」「一街を浸水から守る」「河川や海、湖沼の水環境をきれいにする」「保全する」の4項目に整理している。また、近年は資源として注目を集めている。

下水道がこれら目的と役割を担ってきた背景、そしてこの役割を担う下水道システムの仕事、近代以降に作られた下水道資産の価値を「四十年一五五年以上」にわたる、日本下水道協会の岡久宏史理事の知識と経験から、下水道ビジネスにもわかりやすく解説している。

使った水はどこへ行くのか、なぜ汚れた水がきれいになるのか、誰が費用を賄っているのかという下水道の基礎と下水道の歴史と制度を踏まえながら理解することができる。

国民が感じる下水道の多様な意識は、日々の営みを地盤の下から支え、排水口やトイレのこう側で地面の下に受け止めて大きく変化してきた下水道の努力の賜物と言える。

本書は、基本的な理解の先にある膨大な下水道のポテンシャルを引き出すための「はじめての一步」になる。

### 下水道の「?」の解決に



### 改訂版 すいどうの楽学 初級編

熊谷 和哉 著

日本水道新聞社 1,320円

「この本を手に入れたい皆さん、どういった経緯でこの本を読まれているでしょうか。職業として水道に携わることになったもの、水道自体についてほっとく人、初心者、そんな方々から水道を無理なく、楽しく知ってもらおうと意図して制作した本です(本書題詞より抜粋)」

本書の内容は、この言葉そのものである。まさに水道の仕事に興味を持った皆さんに読んでほしい一冊だ。

まずは、学校教育の中で「習った水道に関する内容を大人になった私たちに再思い出させて、実務者としての学びを与えてくれる。

そして多くの水道初任者の壁になる業界用語の解説が秀逸だ。水道の現場は特有の用語が飛び交う。これは新人社員だけでなく、職場の人事異動で水道に携わることになったキャリアを積んだ社会人も悩まされる。言葉は業界用語が分かれ、水道への理解が一気に進む。本書は、日々の暮らしの中で身近にある水道への理解を、実務者としての水道の理解に丁寧に導いてくれる。

著者は、大学で水道を学び、厚生労働省をはじめとする国の機関で水道に携わった経験を経験した行政官である。

「初級編」ではあるが、最後には水道法の解説を教える。知識だけでなく、水道の押さえるべき基本の考えが身につく。

続編として「中級編」も発行されている。本書を読めば、日々の景色がすべて水道の学びへと変わる。

### 水道を無理なく楽しく



### 日本の下水道を守る! 地下の勇士たち

関口 暁子 著

幻冬舎メディアコンサルティング 1,650円

ライフラインは地上から見えない。水道・下水の仕事はまさに「縁の下」の力持ち。その目に見えない仕事に、蛇口から勢いよく出る水を持つて恩恵を享受できる水道以上に、下水道の仕事は思いが強いかもしれない。

本書は、見えないライフラインの象徴とも言える下水道の維持管理を日本で初めて立ち上げた企業・菅清の創業からこれまでの歴史と、同社で働く社員が「地下の勇士」を通じて、日本の下水道の発展についても読み物として迎えることができる。

3K(きつい・汚い・危険)と称される下水道管線の維持管理の真実、正面から向き合ってきた同社。コロナ禍生活の根幹を支える「エッセンシャルワーカー」が注目された。また下水道の管線管理は「エッセンシャルサービス」の一端を担う「サービスマン」が注目された。また、魅力ある職場づくりの土壌と改善こそが、日本の下水道の普及・発展にも60余年の歴史を歩んできた同社がエッセンシャルサービスを担ってきたという切実な後立りだと実感する。

土木・機械・水質・環境・総務など多種多様なキャリアを持つ社員が入社当初の苦労話やキャリアパスへの考え、会社が成長していく裏話から、エッセンシャルワーカーの働き方が見える。

### 縁の下の本当の力持ち



### 日本の水道事業の経験

国際協力機構・水道技術経営パートナーズ・日水コン

水道の水をそのまま飲む国は世界で12カ国と言われる。日本は2カ国に含まれる。98%という水道普及率と、日本が高水準の水道を有することを裏付ける数値として一般的にも用いられる。

本書は、JICA(国際協力機構)などを通じて展開される日本の水道の海外支援において、日本の水道の成り立ちと特徴を説明するためにまとめられたもので、JICAの報告資料としてウェブ上に公開されている。

なぜ日本の水道は飲めるのか、いかにして高い普及率を達成したのか、その答えは本書に明確に示される。

支援対象となる途上国に留意点を含めた構成となっており、SDGs(国連・持続可能な開発目標)の目標に合ったQ&Aを設定。ユニバーサルな課題設定は、水道に興味を持ち始めたすべての人の疑問にも対応する。広域化「官民連携」という、今の水道界のトレンドともいうべきキーワードについても歴史と事例から丁寧に教える。

教える側は「素晴らしい」を伝えようとするが、教えられる側は「その実を知りたい。海外支援の活用を目的に作られた本書は、素晴らしい」を押し付けたい。

水の仕事を志す人、蛇口を使う側から、蛇口の向こう側を守る人の視点へと丁寧にいさなっていく。

### 日本の水道の実を知る



### 「水×SDGs」ワーキンググループ報告書

Japan National Young Water Professionals(Japan-YWP)

SDGs(国連・持続可能な開発目標)は、ほとんどの人が知る。国際目標となっている。そのSDGsの17の目標の一つに水と衛生が掲げられていることも知っている。水を仕事とする多くの人々にとっても当然、関心があるが、学生と会話する機会を持つSDGsへの関心はそれ以上に高い様子が伺える。

なんと水と近い距離にあるSDGsであるが、これに確かな当事者意識を持って関わろうとする意外にもメシシにくい。

SDGsを「日本文化」「水文化」「自分文化」させようという組織だが、この報告書を取りまとめた水分野の若手関係者が集う組織「Japan YWP」だ。

Japan YWPは、2年間かけてSDGsを本気で読んだ。目標6「安全な水とトイレを世界中に」だけでなく、「17の目標と160のターゲットを「日本文化」「水文化」「自分文化」すべく、咀嚼している。

その中で作り出したのが「水×SDGs」メソッドだ。そのまま使えばいいSDGsを、日本の水道・下水道の文脈で使えるものにした。本書はウェブで無料公開している。どのように使えばいい報告書を読んでもいい。

自分のキャリアパス、働く職場環境、そして水道・下水道業界の未来を描くコンパスとなる。

現職の社会人以上にSDGsへの高いアンテナを持つ学生だからこそ、より深い理解に到達できる内容となっているはずだ。

### SDGsへのコンパスに



### 対話して行動するチームのつくり方

橋本 淳司 著

三省堂 1,980円

本書とともに、著者が精力的に行っているワークショップに参加することもぜひ勧めたい。水を素材にしながら、読んで、話して、自分で頭脳に縛られがちな視野を大きく広げられる。

コロナ禍において対面でも話さずスキルに不安を覚える学生も多いと聞く。仕事のコミュニケーションだけでなく、日々の友人との会話や学校でのディスカッションにも生きるはずだ。水を題材にした学びから、気持ちの淀みも清流へと変わっていく。

対話して行動するチームのつくり方 楽しみながら身につく話し合いの技法

水、環境を題材にしながら、高校生の部活動や中身、身近な課題、社会課題の解決に向き合う中で、人が育ち、未来拓かれていくストーリーを描いた「実務書」と言える。

著者の橋本淳司氏は、言わずと知れた水シャーティスト。20年余、水の現場に精力的に向き合ってきた。皆が関わる調整不可欠となる水問題、取り残されている人はいないか、欠けている視点はどこか。常にアンテナを立て、現場で身に付けた著者の経験が本書には凝縮されている。

### 水から学ぶ会話スキル

# 水処理にまつわるエンジニアリングを知る

## オンライン1DAY仕事体験

水処理にまつわる短期集中型オンライン 1DAY 仕事体験

水ビジネスに関心をお持ちの皆さんを対象に、オンラインでグループワーク、具体的な技術職の業務体験などを通じて、水処理の事業フィールドを体感していただきます。私たちの水処理技術の裏側をお見せします!

▼日程・詳細はこちらから▼




マイナビ 2023      リクナビ 2023

○水道事業…確かな技術により日本の安全でおいしい水を支えています。

○下水道事業…汚水浄化、処理水の再利用など循環型社会の構築に貢献しています。

○産業用水・廃水事業…産業分野の水に関する多様なニーズに応えます。

○O&M事業…技術とノウハウを活かし、上下水道施設の運転維持管理を行います。

○海外事業…合弁事業、ODAを通じ、さまざまな国の人々に貢献しています。



## 水道機工株式会社

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘5-48-16 TEL. 03-3426-2131 FAX. 03-3427-3388  
http://www.suiki.co.jp